

(第3種郵便物認可)

微小な金属片も発見

タスPOS三遠

アドバンスフードテック 豊橋



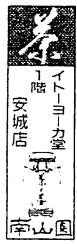
直径0.3mm程度の微小な金属片も発見できる高感度磁気センサー式金属検出装置＝豊橋市西幸町で

豊橋市の食品関連機器販売会社「アドバンスフードテック」（鈴木周一社長）は、磁気センサーを使った高感度金属検出装置を開発した。従来は難しかった直径0.3mm程度の小さな金属異物を発見できるという。全国の食品や医薬品メーカーに販売する。

同社は二〇〇二年度から二年間、文部科学省の補助を受け、豊橋技術科

学大の田中三郎教授と共同で装置を開発した。この装置は、非常に高感度の磁気センサーで食品や医薬品の磁気を測定し、そこに含まれている鉄やステンレスといった

磁性金属の微小なかけらを感じする仕組み。従来の磁気コイル式の検出装置に比べ、温度や



塩分、アルミ包装材料などの影響を受けにくい。また、磁性金属以外にも検出できるエックス線式と比べても、液体の中に固形物が含まれるなどの材質が不均一な製品で、異物を発見しやすいという。装置は、コンベヤーに乗った食品を自動的に測定し、異物を発見するとブザーが鳴り、コンベヤーが停止する。測定結果は約一年間保存される。価格は装置の大きさにより六十万～八百万円。年間十台の販売を目指す。問い合わせは、アドバンスフードテック＝電話0532(29)90330532(29)90330533へ。(重村 敦)